

～今月の花木～



ウメ 梅

バラ科・落葉高木・中国原産

幹や太い枝がよく曲がる樹形である。花を觀賞したり果実を食用にするため、多くの園芸品種がある。



日本や世界を代表するツバキの原種、ヤブツバキ

ツバキ・サザンカの話

寒い時期に咲く樹木の花の種類は少なく、何か咲いているのを見かけると、つい視線がそちらを向いてしまいます。今時期に、常緑樹に赤や白系統の花が咲いていれば、ツバキやサザンカの仲間であることが、多いようです。

ツバキの仲間は日本を北限に中国・台湾・朝鮮・ベトナムなどアジアの東から東南の一部が原産地です。その原種は現在までに約250種が知られていますが、日本で自生しているものには、ヤブツバキ・ユキツバキ・サザンカ・ヒメサザンカの4種とされています。

植物における仲間の定義は、一般に科と属が同じものを指し、ツバキの仲間は「ツバキ科ツバキ属」になり、その下に種(品種)がきます。この種(品種)はツバキの仲間では非常に多く、世界中で5000種類はあるとされています。品種の多さが物語ることが、それだけ愛好者が多いこと、また、交配による新花づくりが容易なことの表れです。

私たちの身近によく見かける樹木で、花が咲いていけばその花を愛でる反面、害虫(チャドクガ)の発生があり、最近では街中では伐採して他の樹木に植え替えられる事例も見受けられます。

害虫などの欠点は、消毒や剪定などにより容易に対応可能で、古くから愛されているツバキやサザンカの仲間を守ることに、つながります。

＜ツバキ、サザンカ、カンツバキの主な特徴＞



ツバキ (椿)

花期…11～5月
種類や場所により開花時期は大きく異なるが、最盛期は2～4月のものが多い。ツバキは冬の花のイメージがあるが、よく咲き誇っているのを見かけるのは、日も長くなり春の気配を感じる頃である。ツバキ(ヤブツバキ)の北限自生地は世界的にも青森県の夏泊半島である。



サザンカ (山茶花)

花期…10～12月
サザンカ秋咲き、ツバキ冬咲きのように言われ、サザンカは咲く時期が早いものが多い。野生のサザンカの原種の花は白色で、日本でも九州など南の方が自生地のため、ツバキに比べると耐寒性がやや劣るとされる。生垣にされるのは、ツバキよりもサザンカの方が多いようである。



カンツバキ (寒椿)

花期…12～2月
ふつう、カンツバキというと、枝が横に張り、背が高くないものが多いが、街路樹や公園などの植込みによく使われている。枝が縦に伸びて高さ3m位になるものを「タチカンツバキ」という。ツバキというよりは、サザンカに近いので、花びらは1枚1枚バラバラと落ちる。

どうやって、見分けるの?!



上の図はツバキの仲間の葉っぱをスキャンしたのですが、何か分かりますでしょうか。正解は右からツバキ、サザンカ、カンツバキの順です(ほぼ原寸大)。この3つは、見分けが付きにくいのですが、特徴を理解することで細かい品種まで特定するのは別として、大まかな区別はつけられます。葉はツバキが一番大きく、サザンカとカンツバキは、ほとんど見分けが付きません。

カンツバキは名前からしてツバキと思われがちですが、サザンカとヤブツバキの雑種からつくられたといわれており、その形質はサザンカに似ています。獅子頭が代表的な品種です。

花の散り方で見分けることも出来ます。ツバキは花全体がボトリと落ちる感じ、サザンカとカンツバキは花びらがバラバラに落ちる感じで、落ちていた花で見分けることも出来ます。



ツバキ



サザンカ

ツバキ類の栽培管理スケジュール

主要な開花時期や栽培管理作業時期をまとめてみました。バラなどに比べれば、手間のかからない樹木だと思います。

作業内容/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
サイ生 育	ツバキ	← 開花・受粉・結実 →					← 花芽形成期 →						
	サザンカ						← 花芽形成期 →			← 開花・受粉・結実 →			
剪定				← 花後剪定(花芽形成前に済ませる) →					← 剪定は花芽の無い枝を軽く抜く程度 →				
害虫駆除				← チャドクガ1回目 →				← チャドクガ2回目 →					
植えつけ・植替え			← →				← →			← →			

剪定時期

ツバキやサザンカは、花が咲き終わった後、花芽を形成する前の間に剪定をすると、翌年の花をより多く楽しむことが出来るため、花後の4～5月が剪定の適期です。秋の剪定は、花芽が無く徒長した枝などを整理し、樹形を整えます。

植付け・植替え時期

真冬と真夏はさけ、上の表の時期が、適した季節です。(移植も同じ)
さし木で増やす場合は、6～8月の夏ざしが最適期といわれます。枝の皮を剥いで水苔で包み発根させるとリ木の場合は、3～6月が適期とされています。

害虫駆除

「チャドクガ」という害虫(写真)が発生することがあり、これに人がさわると痒みを伴う湿疹が出ます。対策としては、発生初期に殺虫剤散布を行います。もしくは、葉の裏についている卵や発生初期の集団でいる幼虫に触れないよう、枝ごと切除し補殺します。また、剪定して風通しを良くすると、この虫の発生が多少軽減されます。



栽培環境

日なた、日陰を問わず適応能力の高い樹木です。但し、日なたではなるべく西日の当たらない場所、日陰ではなるべく明るい日陰が適しています。水はけの悪い土地と、アルカリ性の土地を嫌います。

施肥

地植えで根づいてしまえば、ツバキに限らず造園緑化樹木の場合、施肥をしない事が多いのですが、もし施肥をする場合は、2月に寒肥として枝の先端の下に環状に有機質肥料などを施します。

—ツバキと文化—

茶席にツバキの一輪挿しなどを飾る習慣があり、そこに用いる一重の小輪咲きのツバキの花を「侘助椿(わびすけつばき)」とよんでいます。「侘び・寂び」を表現する手段として、茶席では清楚な花が好まれます。一方、欧米では侘助椿のような花は地味で貧相な花だとされることもあり、大輪で派手さのある花が好まれるようです。



侘助椿の一種、白侘助



ツバキの花が落ちている様子を「落ち椿(落椿)」といい、特に苔の上などに落ちている様子は、美しく散るような気持ちを彷彿させます。落ち椿は俳句の春の季語にもなっています。

—ツバキの利用—

花を觀賞する以外にツバキといえば、ツバキの種子を搾り出してつくる椿油の利用が有名ですが、古くはツバキの材の特徴である硬さや緻密さから、櫛や食器、版木や農具の柄など多くの工芸品などに利用されてきました。

ツバキの仲間(ツバキ科植物の一例)



チャノキ

ツバキ科ツバキ属

日本茶になるこの木は、ツバキの仲間である。チャノキの葉は乾燥させ茶葉にできるが、ツバキの葉で作ると、まずいようである。チャノキの花は11月頃咲く。鎌倉時代に中国から来たと言われる。



ナツツバキ

ツバキ科ナツツバキ属

別名の「シャラノキ」というほうが有名かも知れません。6～7月頃、白色のツバキに似たやや大きめの花を咲かせる。こちらより木も花も小型の「ヒメシャラ」もツバキ科ナツツバキ属である。

❖嫌われているのかな：
昔から民家の庭や公園、街路樹の植込みまで幅広く植栽されてきたツバキ、サザンカですが、最近あまり新しく植えられていないような気がします。
その理由は触れると人がかぶれる害虫のチャドクガの被害発生源になるためと考えられます。害虫駆除など厭われない愛好家の方は別として、ツバキなどに興味の無い方からすれば、ツバキなどなくてもよい風潮すら生まれかねません。
何かにつけ、手間のかからないもの、安全なものが好まれるご時世ですが、消毒や剪定などで対処できることでもあり、生物多様性の観点から、むやみに無くしてしまうのはいかがなものかという気もします。
バラやサクラの様な華やかさに欠けるため、あまり興味をもってもらう事も少ないようですが、寒い時期に咲く少ない花として、たまには気に留めるのもよさそうです。